

照明講座

わいわい

「キヤキヤ」

カサノシヨシヨ

去る9月16日、「コミュニテイシアターAQ(かすがい稽古場)で、尼崎市舞台芸術協会主催の照明講座が開催された。

照明を学びたい若者や高校演劇部の生徒約30名が参加。

数年前にも同じ講座を開いたが、今回は『明かり屋』としての台本の読み方・灯体をより早く吊り込むコツ・プラン図の書き方などより具体的な内容。

午後は実践。教材として前

以て渡していた台本を元に「舞台設定は?」「時間は?」「季節は?」など、考えた上でどういう照明にするかを勉強。

受講生たちはみんな真剣にメモを取り、実際に灯体や調光卓を触る段ではキヤキヤ騒ぎながら(笑)照明を学んでいた。

《余談》

今回昼をまたいで講座。講師のたけうち(かすがい団員)が腕をふるい、本格のカレーを披露。

講座終了後のアンケートには「カレー美味しかった!!」の一文が:(笑)



楽屋

トランスは

公演日程も決まり稽古が始まると...なぜかいつも、

『流行り台詞』が生まれる。数年前にやった『てのひらのきせき』の時は『あ、そつちか』が大流行だった。

大抵は公演が終われば忘れ去られ、不動のギャグの地位を占めるものは少ないのだが、当時のタイムリーさの分だけみんなで使いまわし爆笑していたものだった。

で、今回の流行り台詞は『シウウ』である(?)。

芝居を観てもらえばわかるが、シウウというのは名前前で、「周、それを取ってください」とか「あれはできましたか、周」という風に使(もちろん、言う相手は周ではナイ。言い方がミソ(笑))。

最近、結構これで笑いが絶えない稽古場である。

より大きい?

トランスは、衣装に白衣が必要。

各種多様なものが詰まっているかすがいの二階、白衣も何枚かあるのでラッキィー...と思いきや、どれもサイズがデカイぞ、おい。

白衣を着る役者はとってこま(小さい)のだ。

新規購入は見合わせ、中で一番小さいものを(Lサイズ)採用。

ところが、よくよく探したところ、

「国か?」「極楽かあ?」

ってことになって...

後藤三三クンが働いていたおかまバーは『ラウソング金斗雲』立原雅人氏のマンションは『パレス・ハレルヤ』と名付けられました。

ほによ?

てみるとLサイズがひよつこり出てきてコンニチワ♪ ヨシヨシと着てみたが、これがなぜかしより大きかった。

そんなアンリ??

おこれし
ホ代官さま

とある稽古日。マンションでの、雅人&三三シーン。

密かに彼を想っている三三が、これ幸いと彼の体に触りまくる、雅人は貞操の危機に...という場面なのだが、演出がひと言、「そこまでやらんでええ!」

いったい三三はどこを触りまくっていたのか...

えうご期待(!!)

あのおし
ここの芝居

トランスです

トランスでは
ありません。

トランスです

トランスです

ヤリます

頭痛肩こり
樋口一葉

なんとなんと! 来春の公演作品、もう決まってる!?

そーなんです、決めちゃいました!

『頭痛肩こり樋口一葉』お久しぶりの井上ひさし作品です!

今秋の作品探し中、何を思ったか「来春コレやろう!」と言いだした某団員。

女6人芝居、またご一緒したい女優達を誘い出すための選定か?

まだ上演許可申請もしてないし、公演日も決まっちゃいないけど(公演日決まないと申請できないノダ)、その方たちへの声かけは万端。

あとは...明治という時代設定を考えて髪を伸ばすのみ! (...カツラを借りられない貧乏劇団、地毛で日本髪を、の計画であります、ハイ...)

装置屋の

場面は次々にかわりまが、転換の為の暗転はナシ!をコンセプトに舞台美術を考えたら、シンプル・シシクなモノトーン装置になりました。カオス(混沌)の象徴に雲型を思いつき(↑プランナーはお気に入り)コーナーに仮置きしてみると、

迫りくる嵐(17号)の中、ガソリン入れつつ煮える頭で作っちゃいました。カッコいいチラシに負けるもんかの意気込みです。(S・T)

編集の 後記

意気込みです。(S・T)